

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>理念をもとに、地域の中でその人らしく暮らせるよう、常に考えながらサービスを行っている。</p>	○	地域密着型サービスとしての理念を提示できるよう、職員全体で話し合っていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>理念を掲示している。実際の業務の中で気がついたことを話し合い、理念の実践を目指している。</p>	○	理念の理解を一層深めるため、理念の唱和をする等、対応していきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>家族や地域の方に理解をしていただけるよう、機会のあるごとに説明している。</p>	○	お知らせ等の印刷物を一緒に印刷したり、目にする機会を増やすようにしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>あいさつはもちろん、散歩や外出時には声かけをし、交流を図っている。</p>	○	緊急時に協力し合えるように、近隣の認識を新たに、防災訓練にも参加していただけるよう考えていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>自治会等に働きかけ、地域活動の情報をいただきながら、交流を図っている。</p>	○	地域の行事に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの受け入れ相談、認知症に関する相談に応じている。地域高齢者に対して何が出来るか、話し合いの機会を作っている。	○	介護相談や介護教室の実施を考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃、気がつきにくい所を指摘していただき、更に、良い環境になるように評価を活かし、話し合っている。	○	改善すべき点をすぐに見られるようにしておく等、意識して業務ができるようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施し、会議で出た意見を実現できるように取り組んでいる。	○	改善点を項目ごとに書き出し、すぐに見れるようにしておく等、意識して業務ができるようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	情報の提供や収集を通じて、市との連携に努めている。	○	市の担当者に、意見を聞かせていただく機会を、運営推進会議以外で設けていくように対応していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を持っている。	○	ホーム内での研修会などを検討していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内に虐待は見られない。今後も起こることがないように、注意している。	○	研修・勉強会等を通じて、更に職員の意識を高めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を説明したうえで、利用者や家族が納得できるまで、疑問点に対し説明している。	○	入退居に際し、安心して任せてもらえるよう、更に意識を高くしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は業務中に、外部に関しては、利用者に家族会・運営推進会議へ参加してもらっている。	○	いただいた意見等に対し、会議を設けて話し合い、対応、改善していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会や、面会時に定期的に報告している。	○	印刷物やホームページでの報告も行っていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会や運営推進会議で意見をいただいている。	○	いただいた意見等を参考にして、職員一同が話し合い、対応、改善に努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見を出してもらい、朝礼や研修の際に話し合い、対応、改善している。	○	もっと、意見の出しやすい環境を作っていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯に職員の数を増やす等、要望に対応するための勤務の調整を行っている。	○	今後の更なる状況変化に対応するため、話し合いを増やし、調整しやすい環境を作っていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代わる職員のいる間に、利用者が新しい職員に慣れるように配慮している。	○	職員の固定に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務の中で、注意・助言を行っている。社内研修に参加している。	○	職員一人ひとりに、問題意識を持って業務に臨み、サービスの質の向上に努めるよう、意識の改革を考えてもらえるようにしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・見学等で交流の機会を図っている。	○	地域密着型サービス間同志の交流を、強化していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	こまめに休憩を取ってもらう等、配慮している。	○	業務実施にあたり、ムリ・ムラ・ムダのないよう、効率の良い作業体制の確立に努めていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員個人が、個々の業務内容を十分把握し、その重要性を認識して、顧客満足度の高いサービス提供に取り組んでいく。	○	各々が常に問題意識を持ち、社内外研修にも積極的に参加し、自己研鑽に努めていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にて、安心して利用してもらえるよう配慮している。	○	面談の回数を増やす等して、顔を覚えてもらったり、安心して話をしてもらえるよう努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	問題の大小に関係なく、相談があった場合は、随時、電話・面談にて対応している。	○	細かい疑問点にまで、納得がいくまで説明する等、信用していただけるよう努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の要望状況に応じ、他のサービスの紹介をしたり、その時最適なサービスを一緒に考えるようにしている。	○	本人・家族が相談することにより、安心できる対応を心がけていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず本人・家族が見学、職員と面談し、納得したうえで利用されている。	○	見学の回数を増やしたり、体験入居をしてもらう等、環境整備を考えていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	相手の立場に立ち、共感的態度で話を聴きながら、職員・入居者お互いを理解していき、お互いに尊敬し合える関係を目指している。	○	お互いに言いたいことを言い合い、意見を交換し、理解を深めていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人のことを共に考え、相談し、より良い支援ができるようにしている。	○	更に協力し合えるよう、話し合いを増やす等、考えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のあるがままの関係を、考慮した関わりが持てている。	○	本人と家族の関係を受け入れ、良い関係性の構築を職員間で話し合っていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人からの電話や手紙に、本人が対応できるように支援している。	○	抵抗がない範囲で、本人の友人・知人に連絡してもらえよう、家族と相談していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が利用者に用事を頼んだり、手伝ってもらえるよう頼んだりする関係を大切にし、見守り等にて対応している。	○	全てに関与するのではなく、利用者同士の関係を信頼し、対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅復帰し、家での生活に不安があったので、連絡を取っていたが、落ち着いて生活できはじめたとのことで、必要があれば連絡を取り合うような形になっている。	○	近況報告のみでも行えるような関係性を作っていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活に支障をきたさないような要望・意向であれば、本人の納得するように対応している。	○	もっと積極的に、本人の望む生活を実現できるように考えていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から聴き取り、確認している。	○	かかりつけ医や以前利用のあったサービス事業所等に、確認していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の生活状態を見たり、バイタルチェックにより、把握に努めている。	○	少しの不安や心配を、話してもらえような関係を築くよう努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人や家族から、希望することを確認したうえで、どうすれば実現できるかを、職員全員で検討し、作成している。	○	本人のニーズを適確に形にしていけるような話し合いを、していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月という期間及び状態が変化した際には、見直しを実施している。	○	ケアの内容に優先順位をつけ、順番に対応していく等、内容の見直し方についても、職員間で話し合っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録を作成し、その日の状況等を記録している。	○	誰が見ても、どのように処遇・介助すればよいか分かるような記録の方法を考えていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者本人はもちろん、家族の要望に応じて、いろいろに対応している。	○	家族の要望に注目しすぎ、本人の要望が通らないことのないように注意していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議やボランティア活動等の行事を通じて、協力体制の強化を図っている。	○	消防訓練等を消防や地域の人と共同で実施し、体験していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望に応じ、他の事業者等に確認作業を実施している。	○	利用できる可能性を考え、前向きに対応していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加をいただき、情報交換を行い、効果をあげている。	○	地域包括支援センターとの共同で、実際に具体的なサービスを実施していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医がある場合は、そちらを優先し、そこにかかれない時は、本人・家族と相談し、納得していただけの対応をしている。	○	それぞれの医療機関の報告・連絡・相談を細かく行い、信頼関係を深く築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関のクリニックに往診を依頼し、月に2回、診察を受けている。	○	年に1～2回は大きな病院において、検査を受ける等、対応を考えていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの看護職員と相談しながら、支援している。	○	少しの変化でも報告し、気になることがあれば、指示を受けて支援していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際は、電話や書面にて情報交換を行い、退院にふさわしい環境整備を行っている。	○	利用者・ホームのかかりつけ医に相談し、入院が必要となった時の連携について確認していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについて、家族に説明し、納得のいく支援を行っている。	○	本人、家族の要望が変わった場合にも対応していけるよう、チームで話し合っていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアを視野に入れ、看護体制やチームでの支援に取り組んでいる。	○	家族が、安心して任せられる体制作りを目指していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族やケア関係者と話し合い、生活の様子や近況等の情報提供に努めている。	○	ダメージを減らす対応について、ホームとしてできることを、職員間で話し合い確認していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々人のプライバシーを守るため、声かけ、記録の取扱いには、全職員をあげて注意している。	○ 職員同士お互いに注意し合い、よりよい言葉かけ等の対応を目指していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	分かりやすい説明を心がけ、自己決定しやすいように対応している。	○ どのような場面においても、自己決定ができるように、対応していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	提供したサービスに納得ができない入居者がいた時は、本人が望むことを優先し、支援している。	○ 日頃から、本人の希望がどこにあるのかを理解できるように、関わりをもつよう心がけていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容は、専門の方にホームでお願いしているが、本人・家族により好みの髪型を聞き、対応している。	○ その日に着たい服を、自分で選んでもらえるように対応していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに対応し、喜んで召しあがっていただけるメニューを考えている。食後、下膳は、できるだけ本人にしていただき、協力して食事の時間を良いものにしていく。	○ 職員がいなくなると、洗い物をしてくださる方もいるので、いろいろと試みながら対応していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者全員に話し合ってもらい、決定したおやつや飲み物を出せるようにしている。	○ 入居者一人ひとりの対応を心がけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用して、排泄パターンを確認し、トイレ誘導にて対応している。	○	なるべく、薬に頼らない排泄を目指していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が介助してしまうのではなく、できない所のみ介助し、あとはゆっくりと一人で入浴してもらえるようにしている。安全確保のため、職員は脱衣所にて待機している。	○	今後も、本人の希望・体調に合わせ、各人に声かけし、その日の入浴順を決定していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯・室温・音等に配慮し、ゆっくりと休めるようにしている。	○	空腹や徘徊については、本人が納得できるように対応していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの入居者が何ができるか、何をしたいか、どうしたらできるかを考慮し、支援している。	○	毎日少しずつ、いろいろなことを任せてみて、できることを日課にしていけるよう対応したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に本人のお金の管理能力について話したうえで、理解を得られた方に、能力に応じて所持してもらっている。	○	お金を持つことで、本人が少しでも安心してもらえることを、家族に理解してもらえるよう対応していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	受診希望日、買い物希望日等を、その都度伺い、対応している。常には、中庭で話をしたり、散歩に出かけたりしている。	○	当日の外出の希望にも対応できる体制をつくっていききたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や夏祭り等に出かけている。	○	家族の参加や個別の外出支援を、もっと増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話して欲しいと、要望あれば対応している。手紙には、返事を書けるように支援している。	○	日常生活の中で、気軽に家庭生活の延長上と位置づけて、電話や手紙での、家族とのコミュニケーションを図っていききたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪ねやすい環境を心がけている。	○	家族や馴染みの人の訪問支援を得るためにも、ホームと家族、馴染みの人との交流の場を設けていききたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒・転落の危険性のある利用者に対しては、見守りや巡回の強化をすることで、拘束のないようにしている。	○	看護力の強化を図っており、点滴の機会が増えた場合等、どう対応していくか検討していききたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵ではなく、チャイムにて対応している。居室については、本人が鍵をかけていても、開けていただけるよう声かけ、対話にて対応している。	○	鍵に頼るのではなく、職員の意識において、注意し合えるように話し合っていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室時、トイレに入っている時などに、ノックや声かけにて確認する。返答ない時は開けることを伝えてから確認する。	○	就寝時、施錠してある場合は、声かけし、開錠させていただき、巡回している。今後もプライバシーに配慮しながら、安全確認を行っていききたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人の能力に応じて、注意の必要な物を管理してもらっているが、声かけにより、注意を促している。	○	安全な物に交換できるものは、交換を検討していききたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの能力、行動を把握し、その人にとって何が事故につながりやすいかを考え、対応している。	○	夜間の徘徊に関して、ホームの外には出られるが、敷地内からは出られないように、午後8時から午前8時までは、門を閉めるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修や勉強会に参加している。	○	今後も、ホール内にて、定期的な研修会、勉強会を行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、入居者や職員が、防災訓練を一緒に行っている。	○	近隣の協力を得られるように話し合い、訓練を協同で実施できるようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時や家族会にて説明している。	○	家族との間でテーマを決めて、打ち合わせ会を開催することを検討していききたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化に気づいた時は、バイタルチェックおよび看護師に連絡している。	○	常にバイタルチェックをし、表情・顔色・発言・口調等の変化に気を配っているため、今後も継続していききたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の薬の説明書を読み、分からない時は看護師や薬局に確認し、説明を受けている。	○	薬の種類や服用する人に間違いがないか、確認を徹底していききたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分の摂取を促し、体操・散歩等、体を動かすよう声かけをしている。	○	食事の際に、よく噛んでもらうよう声かけをしていききたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き、または、うがいを実施している。また、週に2～3回、歯科の往診があり、口腔内を診てもらっている。	○	今後も継続して、歯磨き、うがいを実施していききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に相談し、量や栄養のバランスを考えている。摂取量は記録し、体調の変化と共に注意している。水分補給はこまめに行っている。	○	水分補給の際、決まった物だけでなく、個別に飲みたい物で対応できるようにしたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	出勤や退勤、介助後に手洗い、うがいをし、手指消毒をしている。	○	市からの情報や他施設の状況に、注意していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理専門の職員により、衛生管理されている。	○	調理専門職員以外の職員が、台所で何かをする場合は、手洗いうがいをし、調理用具を洗ってから使用しており、今後も、継続していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入りの際に、チャイムが鳴るようにしている。	○	玄関前のスロープ脇に花が植えており、玄関には花等を飾るようにしており、今後も継続していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の整備には気を配り、入居者と協力し掃除等も行っている。入居者から、気になる部分の指摘があれば、すぐに対応している。	○	利用者、職員が互いに意見を言い、居心地の良い環境を目指していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとは別に、ソファを設置し、少し離れて座敷があり、思い思いに過ごせるようになっている。	○	一人でいられる場所を、もう少し検討し、増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・日用品・衣類等を持ち込んでいただき、安心感や居心地のよさを作っている。	○	写真等の小物の持ち込みを増やしてもらえよう、家族と話し合っていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに換気を行っている。室内外の温度差に注意して、夏は高め、冬は低めの温度設定にし、あとは着る物によって調節している。	○	あまりに暑い時や、寒い時以外、就寝前の夜間涼しい時は、空調を使用せず、自然の風で対応するよう心がけており、今後も継続していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差をなくしており、手すりの設置をしている。居室を出てすぐにトイレを設置している。	○	敷地内の散歩も多く取り入れて、安全・安心な生活を確保していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所によって、分かりやすく貼紙をする等、対応している。	○	居室内での混乱等は話をしたり、居室内に本人・家族の許可をもらい、貼紙等の対応をしており、今後も継続していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭を設けており、お茶を飲んだり、談話できるようになっている。ホームの西側に畑を作っている。	○	畑を使って花などを育て、水やり等の役割を任せる等、支援していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. グループホームに、今後必要となってくるのが看護力である。看護部を組織化し、正看護師3名、准看護師3名で、グループホームミモザの入居者の健康管理と充実することを目指している。
2. 自社ホームページを利用して、入居者の個人用のページを開設している。これを利用することにより、家族が入居者の日常生活の様子をより充実して見ることを可能とした。